

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 6 年度第 7 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 7 年 1 月 1 4 日 (火)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 9 時 0 0 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長	國府田委員	内海委員	秋元委員
		○	○	○	○	欠
		小栗委員	関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員
		○	○	○	○	○
	事 務 局	生涯学習課 主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ガイドについて <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各会議への参加報告 					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

- ・生涯学習ガイドについて

【議 長】 配布物の確認をする。「これまでのながれの確認」と書かれた資料、それから前回、前々回の会議録、定期刊行物を配布している。今日は、提言としてどのようにまとめるか、その確認までできればと考えている。前回の会議では、生涯学習ガイドの改定について提案するために、講じるべき策を具体的に検討した。前回配布した資料を確認していただきたい。設問1として、冊子の名称や用語についてそれぞれ意見を発表していただいた。これについては、委員の意見をまとめるというより、考え方と案を示すことができればと考えている。次に設問2、利用者が興味ある情報を見つけやすい分類や整理の仕方、それから設問3、ガイドの使い方の内容や項目、形式についても併せて発表していただいた。最初に全体像が分かる見取り図のようなものを示す。利用者の声を載せる。紙媒体という性質を考慮して、基本的な情報を掲載する。担当課で分類して掲載する。導入するためのページとして、ガイドの使い方や、公共施設の地図と一覧を最初に掲載するなど、いくつかの意見が出された。紙媒体の冊子で導入し、載せきれない細かい情報はウェブに掲載し、紙からウェブへ誘導するという話にまとまったかと思う。設問4、市のホームページの中で生涯学習ガイドとリンクを張るとよいと思われるページについては、設問1と同様に案をいくつか示すことができれば。今日は設問5から始める。設問5と設問6についてそれぞれ意見を発表していただき、検討した上でまとめるべきものはまとめ、提案内容の方向性について検討したい。その上で、これまでのながれを確認できれば。それでは設問5、現在生涯学習ガイドを設置している場所以外で、置いてもらうとよさそうな場所と理由について、それぞれ発表していただく。なおこの設問5についても、提言する際には案をいくつか示せばよいと考えている。

【委 員】 まずは市内の生涯学習施設だと考えた。今も配置しているとのことだが、目立たないところに置いている施設もあるかと思う。生涯学習施設においては、やはり力を入れて目立つように置いてもらえるとうよいのではないか。また、どこまで興味を持ってもらえるかは分からないが、町会長など、生涯学習活動に関わりがありそうな人達が多く訪れる場所なので、集会所や交流施設にも置けるとよいのではないか。

【議 長】 交流施設とはどのような施設か。

【委 員】 みずほ台にある施設。集会所と同じような規模で、町会等様々な団体が使える施設。

- 【事務局】 みずほ台中央公園にある交流施設のことかと思う。
- 【委員】 公園の中にあるため集会所とは言えないそうだが、実際はほとんど集会所と同じ。
- 【議長】 生涯学習施設とはどのような施設を想定しているのか。
- 【委員】 図書館や資料館など。広く捉えてよいかと思う。
- 【委員】 リサイクルプラザ利彩館など、一部事務組合が運営している施設にも置いたらどうかと考えた。市内にあり、市民の学びの場として機能している。
- 【委員】 多数の方が集まる施設に置く、という考え方ではなく、そこに集まる人がどういう気持ちの状態なのか、という点に注目した。訪れた人が、何かやってみたい、新しいことを始めたい、という気持ちになっている施設に置いた方が効果的ではないか。例えばキラリ☆ふじみや、献血会場なども何か貢献したいというボランティア精神のある方が来るだろうし、ふるさとハローワークでは単純に仕事を探すだけでなく、何か新しいことをしたいという人もいるだろうから、そういうところに置けるとよいのではないか。行政関連施設だけではなく、賃貸物件を紹介している不動産屋なども、この街ではこういうことをやっているみたいですよ、と積極的に情報提供してくれる可能性もあるのではないか。医療機関などは滞在時間が長い分、読んでもらいやすいのではないか。
- 【議長】 興味関心がありそうな人がやってきそうな場所、手持無沙汰な人がいる場所に置くという意見。私も手持無沙汰な人がいる場所や、待ち時間が発生する場所を挙げた。
- 【委員】 市役所の各課窓口や健康増進センターなどに置けるとよいのではないかと考えた。必要に応じて職員が説明できるので、生涯学習ガイドの認知度を高めやすいのではないか。また医療機関も待ち時間があるので読んでもらいやすいのではないか。中高生に色々なイベントに参加してもらうためにも、学校に置けるとよいのではないか。
- 【委員】 待たされることが多いので、市民課の窓口を挙げた。電車の中吊り広告のように、興味が湧くような見出しがあれば、手に取ってもらえるのではないか。また高齢者福祉課も挙げた。高齢者福祉課を訪れる方々は、生涯学習に一番興味がある年代の方ではないだろうか。子育て支援課も挙げた。子どもがある程度大きくなれば、遊び場などの情報を求める保護者も多いのではないか。
- 【委員】 保護者の方の中には、授業公開の際など、喜んで休みを取って来られる方もいる一方で、お忙しい中なんとか休みを取って来られる方もいる。せっかく休みを取ったのだから、済ませられる用事はすべて済ましておきたいという保護者の方もいらっしゃるのではないか。そう考えると、学校に足を運んだ時に様々な情報が得られるとよいのではないか。ただ、冊子を配布してもかさばるし見てもらいにくい。多くの保護者はスマホで二次元コードを読み取り情報を得ている。チラシの配布やポスターの掲示など、目に触れるよう工夫するだけでも効果はあるのではないか。

- 【議長】 確かに、提供する資料の形も大事かもしれない。
- 【委員】 学校には意外と市の情報を伝える広報物がない。市の活性化の為に、もっと学校を活用してもよいのではないか。PTAの方も頻繁に来校されるので、もったいないと感じる。中学生にもなると、情報に触れればなにかしら思うことがある。学生のうちから様々な情報に触れさせておくのも必要なことではないか。
- 【委員】 児童館を挙げた。チラシという形で掲示できるとよいのではないか。子どもが小さいうちは難しいかもしれないが、幼稚園に入るくらいになれば保護者にも時間ができる。また回覧板を利用するのも手だと考えた。子どもがいる家庭であれば、学校を経由して情報が届くが、子どもがいない家庭もある。回覧板くらいは目を通して思うので、回覧板に載せてみるのも方法ではないか。
- 【議長】 それでは設問6、生涯学習ガイドを案内する対象やタイミングについて。観点①から、お話を伺っていきたい。
- 【委員】 これまで広報についての意見はあったが、マスコミの話は出てこなかった。情報を拡散する力はやはりマスコミが強い。広く参加者を集めたいイベント開催時などに案内できるとよいのではないか。
- 【委員】 富士見市の公式LINEやXなどで広報してもらえると効果があるのではないか。またアナログ的手法になるが、訪れた人という意見も挙げた。窓口業務をしている課にチラシを置いてもらう。興味がある人はその窓口の職員に質問する。質問があったら、チラシを基に説明してもらう。チラシには問合せ先を載せておく。ワンストップではないが、チラシを置いていなければ、窓口で聞かれてもその職員が知らなければ対応できない。チラシが置いてあればそれを基に対応できるのではないか。チラシの内容については、見た人が何かを始めたくなるような動機づけとなるキャッチコピーが書いてあるとよい。ウェブ上に掲載している情報にもたどり着けるよう二次元コードを載せ、ガイドの入手方法も書いてあるとよいのではないか。
- 【委員】 転入者は、富士見市で新しく生活を始めようとしているので、富士見市について積極的に知りたがっていると考えられる。そのタイミングで情報を提供できるとよいのではないか。
- 【議長】 私も同じく転入者を挙げた。関係書類の中に生涯学習ガイドも入れてもらえるとよいのではないか。また妊娠中や未就学児の親に向けて、定期健診等に参加した時に、関連しそうな催しを案内してもらえるとよいのではないか。小中学生とその親については、先程委員からお話があったことと近いが、学校でチラシを配ってもらえるとよいのではないか。
- 【委員】 私も転入者を挙げた。手続きする時にチラシを渡してもらって、若い人やデジタルに強い人向けに二次元コードを入れておく。デジタルが苦手な人向けに、チラシに地域ごとの情報や、どこに行けば生涯学習ガイドが手に入るのか載せておけば、少なくとも自分の住む地域の情報には興味を持ってもらえるのではないか。

- 【委員】 市役所内のそれぞれの課で、待ち時間を活用し具体的な説明やチラシの配布、座って待っている時に目に入るようなポスターの掲示などができるかとよいのではないか。
- 【委員】 市民対応のある窓口で、チラシを目に付く形で置いてもらえるとよいのではないか。
- 【議長】 委員の意見を伺っていると、設問5と設問6は一つにまとめて扱ってもよいのかもしれない。欠席された委員からは就学時健診の際に出前講座を、という意見をいただいている。
- 【委員】 就学時健診は、購入物等も多かった記憶がある。PTA会長を務めていた時に、まさに就学時健診の時に5分程お時間をいただき、PTAの説明をしたことがある。最初に先生たちの説明の時間があり、その後に時間をもらった。その後に保護者の方々は物品の購入をしていたように記憶している。保護者の方に出前講座を聞く時間は無いのではないか。
- 【委員】 学校の規模にもよる。児童数が多ければそれだけ時間もかかる。
- 【委員】 出前講座であれば、就学時健診の時でなくても開催できるのではないか。PTA活動が盛んな学校では、PTAが年に1回警察の人を呼んで出前講座をしている。
- 【議長】 それでは続いて観点②と観点③について。
- 【委員】 広報「富士見」と一緒に公民館だよりが配布される。同じように生涯学習ガイドのチラシも配布できればと考えた。もしくは広報「富士見」に二次元コードを載せて周知するのも一つの方法かと思う。また出産や入学時に郵送する案内があれば、その時に一緒に送れるとよいのではないか。また市役所や出張所など公共的な場所にチラシを一枚置かせてもらう。まちバル期間の対象店や、書店、スポーツジムなどの民間施設にもチラシを置いてもらえるとよいのではないか。
- 【委員】 私も広報紙が全戸配布されるのを利用して、チラシを1枚折り込めるとよいのではないかと考えた。見る人と見ない人とがいるとは思いますが、とりあえず全家庭に届く。また公共交通機関利用者に向けて、例えば駅にポスターを掲示する、チラシを置かせてもらうなどができるかとよいのではないか。
- 【委員】 事業や催し物に参加した人の記録が主催者側に残っていると思う。過去の受講者などに、情報を広めていく方法がよいのではないか。また、駅の近辺を活用できるとよいのではないか。
- 【議長】 過去の参加者にダイレクトメールを送るイメージか。
- 【委員】 私も経験があるが、講座などを一度受けると、他の催し物の案内をまた送ってきてくれることがある。忘れた頃に案内が来るので、リマインドという意味からも有効なのではないか。
- 【事務局】 行政からも送られてくるのか。
- 【委員】 行政からではない。
- 【委員】 なぜか分からないが、キラリ☆ふじみから毎月チラシが送られてくる。

- 【委員】 キラリ☆ふじみは、アンケートなどで今後のお知らせを送っていいか確認しており、同意し住所を記入すると送られてくる。
- 【委員】 傾聴ボランティアなど、民間ボランティアなどから送られてくることは多い。
- 【委員】 ファミリーサポートセンターからも送られてくる。
- 【議長】 各団体が受講者の管理をしていて、過去の参加者に対して案内しているようだ。団体で本人に許可を取り、次回以降の案内を送っている。私は年齢を軸に考えた。まず、20歳の方を対象に、二十歳式の案内等を送る際に一緒に送れるとよいのではないかと考えた。また40、50歳の方を対象に、定期健診の案内を送る際に、その年代の方に興味を持ってもらえそうな案内を送るのもよいのではないかと考えた。高齢者の方に敬老会の案内などを送付する機会も活用できるかと思う。また全市民を対象に、施設内の掲示を増やしたり、ナビゲーターを配置したりすることもできるのではないかと考えた。私は針ヶ谷コミュニティセンターをよく利用するが、掲示に力が入っている。他の施設だと市全体に関わる掲示物も多いが、針ヶ谷コミュニティセンターでは針ヶ谷地域に関する案内が殆ど。インスタグラムやXのアカウントもある。
- 【委員】 私も針ヶ谷コミュニティセンターはイベント等の案内が手厚いと感じる。
- 【事務局】 他の施設と違い、指定管理者により運営されている。そのため他の公共施設と違いがあるのかもしれない。指定管理者の周知の手法は学ぶべき点が多い。
- 【委員】 図書館では、ブックスタートパックとして12カ月検診対象のお子さんに絵本をプレゼントしている。その中に、併せて保護者向けに案内を送るのは一つの方法ではないかと思った。チラシを置ける場所に置く、配れるところに配る、という考えではなく、相手の属性や状況を考えた上で周知しないと届かないのではないか。なんでもやったらいいという訳ではないのではないか。
- 【議長】 不特定多数ではなくターゲットを絞るというのも一理あるかと思う。
- 【委員】 健康に関するお知らせを送る際に、生涯学習を簡単に説明した1枚のチラシを送れるとよいのではないか。健診の案内を受け取ると、また一つ年を取ったなと思う。ただ年を取るのではなく、スキルを磨き上げようという呼びかけがあると気持ちよく受け取ってもらえるのではないか。
- 【委員】 市役所の待合所などで流れる映像の中に、生涯学習に関するコンテンツを入れるのも一つの手ではないか。
- 【議長】 確かに動画は訴求力がある。では最後に観点④、⑤、⑥について。
- 【委員】 観点④について、既存イベントにブースを出してのぼりを立て、ナビゲーターを配置し、チラシを配布し、興味がありそうだったらブースに誘導してナビゲーターが紹介するというのはどうか。観点⑤について、市のPR大使にお願いしてSNSで拡散してもらったり、イベント会場でチラシを配布してもらったりするのはどうか。観点

⑥について、先程議長からも話があったが、二十歳式を挙げた。子どもが先日二十歳式に参加したが、会場で様々なチラシやリーフレットが配布されたようだ。その中に生涯学習ガイドのチラシも入っているとよいのではないか。

【委員】 観点④について。イベントに来ているということは、自分も何かやってみたいと高揚感を感じているタイミングだと思う。そこで背中を押してくれる人がいると、一步を踏み出せるのではないか。観点⑤について、特別な人ではなくて、富士見市を盛り上げようと活動している方のオンラインフォーラム上で、主宰している人たちからこんなものがあると案内してもらえると、受け入れられやすいのではないか。観点⑥について、富士見市でもまれに有名人が講演することがある。そういう機会には足を運ぶ人もいる。そういった場をうまく活用できるとよいのではないか。

【委員】 多くの人が集まる機会を上手に使えるとよい。入口にチラシを置いてもらったり、放送で関連のあることを、失礼のない範囲でアナウンスしてもらったりするとよいのではないか。観点⑤は、特定の個人へ情報を発信できるとよいのではないかと考えた。

【議長】 確かに、特定の個人とまでは行かずとも、対象を絞ってできるとより効果的かと思う。失礼のない範囲で、とはどういうことか。

【委員】 まったく関連がない内容だと、来場者の中には余計なことと感じる方もいるかもしれない。

【議長】 あくまで関連がある内容を、ということか。

【委員】 人材バンクに登録されている方々に送られてくる「わ」を活用できないかと考えた。「わ」は公民館でも見ることができ、登録していない方も見ることができる。スペースをいただいて、生涯学習に関するコラムを載せられるといいのではないか。親和性はあるのではないか。

【事務局】 「わ」は団体が作成している広報紙で、人材バンク登録者の方々を紹介するためのもの。登録者の方に送付するとともに、公共施設にも配布している。

【委員】 公民館の方にコラムを書いてもらえれば、公民館の方の意識も上がるのではないか。

【事務局】 「わ」を見る方は生涯学習に対する意識も高い方が多いと思うので、確かに広報する先としては適しているかもしれない。ただ、団体が作成発行しているものなので、こちらの一存では掲載できない。

【議長】 人材バンクの「わ」でなくても、どこか他の場で公民館の方にコラムを書いてもらうことができるとよいのではないか。さて、一通り意見を発表いただいた。どの機会を捉えて宣伝するか、という案は、カテゴライズして並べ、案の提示ができればと考えている。並べるものは整理して並べる。集約するものは集約し、またみなさんと共有し意見をいただければ。提案するにあたり、これまでの経緯について確認しておく。配布した資料を確認していただきたい。こ

れまでの流れを事務局でまとめた。また関連する資料も再度配布している。

【委員】 これまでのながれの確認という資料の中にある資料番号は、資料2は第2回目の会議の資料、というように、会議の回数と一致しているのか。

【事務局】 資料番号と会議の回数は一致していない。

【委員】 資料4の中で、「子どもが『キー』」と書かれている。また資料6の中で、「前回会議のまとめ」とあるが、これは資料4を指すのか、資料5を指すのか。

【事務局】 資料5に基づいて委員のみなさんから各要素について意見を出していただいた。それをまとめたものが資料6になる。「前回会議のまとめ」は、資料5に基づいて、それぞれの要素にどんなものがあるか出していただいた意見をまとめたもの。

【委員】 子どもというキーワードが出てきたプロセスが理解できた。子どもを中心にして親世代にも働きかけるということに着目したことがよく分かった。また関わり方としてハードルの低さ、継続性、連続性ということ、子どもが関わることで、富士見市民の子どもたちが大人になった時に生涯学習にシンパシーを持ったり、取り組みに参加してみたり、そういったことも、きっと継続性や持続性に関わってくるのだと理解した。

【議長】 色々出された意見をまとめた資料のみを、今回配布している。子どもがポイント、子どもを中心に、という意見が当初多く出ていたが、最終的には子どもだけにフォーカスすることにはならなかった。誰にとってもハードルが低く、関わりやすい状態にすることが理想だとまとめた。方法の一つとして、子どもにフォーカスすることで、社会教育活動へのよい入口にすることができると考えた。しかし、子どもだけに特化すると、子どもがいない家庭には届かない。理想の姿を目指すために、まずは入口を広くすることとし、既存のものとして生涯学習ガイドに着目した。割愛している部分もあるが、大まかな流れは資料にまとめたとおり。みなさんの認識に相違はないか。なければ、次に提案内容のまとめかたを検討したい。

【事務局】 生涯学習ガイドをどのように改定していくか話し合ってきた。紙媒体は紙の特性を活かした作りにし、ウェブ上にはしっかりと情報を載せ、相互できちんと連携させる。生涯学習ガイドの使い方を載せる。興味関心が低い人にも見てもらえるよう、地図を入れるなど、見やすさも意識する。分類方法が分かりにくいので、担当課でまとめて配列する等、具体的な意見が出された。大きく分けて体裁、配置場所、広報に関する意見と理解した。作って終わりではなく、活用してもらうための周知まで含めてまとめていければ。複数の意見を列挙するのがよい箇所と、委員の意見を一つにまとめて示すのがよい箇所とがあると思う。事務局である程度土台を作成し、委員に確認していただくという作成方法でどうか。

【委員】 異論なし。

3 その他

- ・各会議への参加報告

【委員】 2月4日に入間地区生涯学習フォーラムを開催する。議長にも登壇いただくので、ご都合が合う方にはぜひご参加いただきたい。